

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2009年4月)

発表日 2009年5月27日(水)

～輸出持ち直しにより、3ヶ月連続の黒字～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 小杉 晃子
TEL : 03-5221-4548

(単位:%)

		貿易収支(億円)		輸出金額		輸入金額		輸出数量			輸入数量			
		原数値	季調値	前年比	前年比	輸出数量			輸入数量					
						前年比								
07	7月	6820	8225	11.7	16.7	2.2	▲10.3	▲6.4	10.2	3.3	2.3	11.6	3.7	
	8月	7436	9888	14.6	5.8	7.1	▲3.2	▲3.7	15.0	▲2.1	▲9.7	▲0.4	▲4.8	
	9月	16087	9904	6.3	▲3.0	1.8	▲12.7	0.9	6.2	▲5.8	▲4.7	▲0.0	▲11.2	
	10月	9994	9855	13.8	8.7	10.0	▲5.3	10.9	14.2	1.7	3.5	1.6	▲3.9	
	11月	7844	8833	9.6	13.3	7.7	▲10.5	▲7.7	15.2	3.2	▲2.2	5.1	▲4.6	
	12月	8669	7397	6.8	12.3	5.6	▲7.3	▲10.6	12.1	▲0.6	4.7	▲5.9	▲5.2	
	08	1月	▲1063	11278	7.7	9.5	7.7	▲3.1	3.4	11.9	0.7	▲7.1	▲1.7	1.7
		2月	9358	6278	8.7	10.7	14.3	1.8	8.6	21.7	▲1.0	▲0.5	0.6	▲2.9
		3月	10962	6013	2.2	11.4	5.9	▲3.4	5.5	7.9	4.3	▲8.4	2.9	12.5
		4月	4587	4457	3.9	12.2	7.3	▲0.5	3.8	12.2	5.8	▲6.2	4.2	5.6
		5月	3411	4422	3.6	4.8	6.6	▲0.4	0.1	10.5	▲3.4	▲11.0	▲7.3	▲4.8
		6月	1041	965	▲1.8	16.7	▲1.5	▲8.6	▲8.9	1.1	4.4	11.9	1.9	2.0
7月		819	558	7.9	18.2	8.9	▲5.3	3.1	12.1	2.2	▲1.9	▲11.2	0.9	
8月		▲3142	▲2743	0.2	17.1	▲1.0	▲18.9	1.7	2.6	▲4.5	1.4	▲8.1	▲5.2	
9月		910	▲397	1.5	28.8	▲0.6	▲12.2	▲1.1	1.2	6.1	5.0	4.0	9.9	
10月		▲752	▲2568	▲7.9	7.4	▲6.9	▲17.4	▲10.4	▲2.8	▲2.4	▲18.3	▲6.0	1.8	
11月		▲2275	▲3396	▲26.8	▲14.4	▲22.7	▲28.5	▲16.8	▲22.4	▲10.7	▲12.2	▲14.8	▲8.6	
12月		▲3222	▲1727	▲35.0	▲21.5	▲29.9	▲31.3	▲29.7	▲30.7	▲7.1	▲16.1	▲10.6	▲5.6	
09	1月	▲9560	▲4165	▲45.7	▲31.9	▲40.9	▲48.6	▲42.0	▲39.0	▲11.7	▲22.8	▲15.3	▲10.7	
	2月	827	▲717	▲49.4	▲43.0	▲45.4	▲55.5	▲45.6	▲40.6	▲25.3	▲24.3	▲27.4	▲30.8	
	3月	103	▲507	▲45.5	▲36.6	▲41.1	▲49.5	▲49.6	▲33.8	▲20.3	▲22.8	▲27.5	▲20.6	
	4月	690	▲521	▲39.1	▲35.8	▲35.8	▲49.4	▲42.8	▲28.7	▲20.3	▲27.3	▲29.7	▲18.8	

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支は3ヶ月連続で黒字に

4月の貿易収支は+690億円(原数値)と、3ヶ月連続の黒字となり、黒字幅も前月(同+103億円)から拡大した。輸出は、海外での在庫調整の進展などにより、金額(前年比▲39.1%←3月同▲45.5%)、数量(前年比▲35.8%←3月同▲41.1%)ともに前月に比べ減少率は縮小した。輸入金額(前年比▲35.8%←3月同▲36.6%)も、前月から減少率は縮小したが、輸出の縮小幅が輸入のそれを上回ったことにより、貿易収支の黒字幅は拡大した。

○アジア向けに加え、欧米向け輸出も底打ちの可能性も

輸出金額、数量とも2ヶ月連続でマイナス幅が縮小しており、このところ持ち直しの動きがみられる。

地域別(金額ベース)にみると、依然としてロシア向け(前年比▲87.0%←3月同▲83.3%)の大幅な落ち込みが続いているものの、アジア向け(同▲33.4%←3月同▲39.5%)は前月に続き減少ペースは鈍化している。特に、中国向け(前年比▲25.8%←3月同▲31.5%)については、景気刺激策の効果や需要回復が輸出に好影響を及ぼし始めている。さらに、米国向け(同▲46.3%←3月同▲51.4%)、EU向け(同▲45.4%←3月同▲56.1%)、中東向け(同▲42.4%←3月同▲49.7%)も、いずれも前月から減少率が縮小しており、欧米向け輸出も底打ちに向かう可能性が出てきた。

品目別で見れば、自動車は米国向け(前年比▲70.7%←3月同▲69.1%)が前月から減少率が拡大したが、EU向け(同▲58.5%←3月同▲74.0%)は減少率が前月より小さくなっており、自動車輸出も持ち直しつ

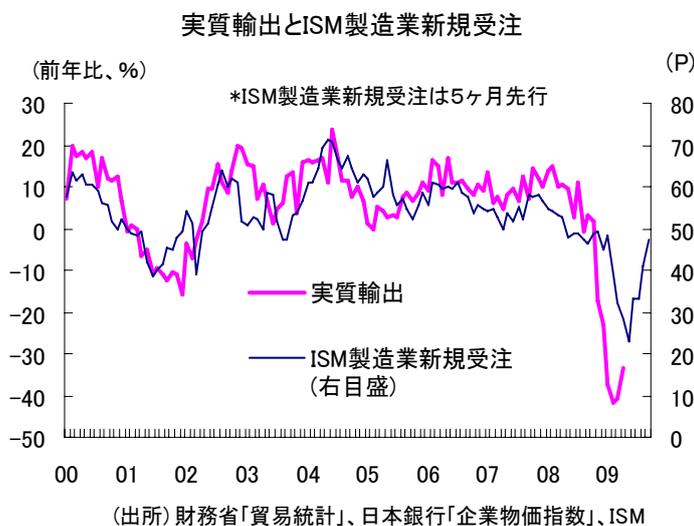
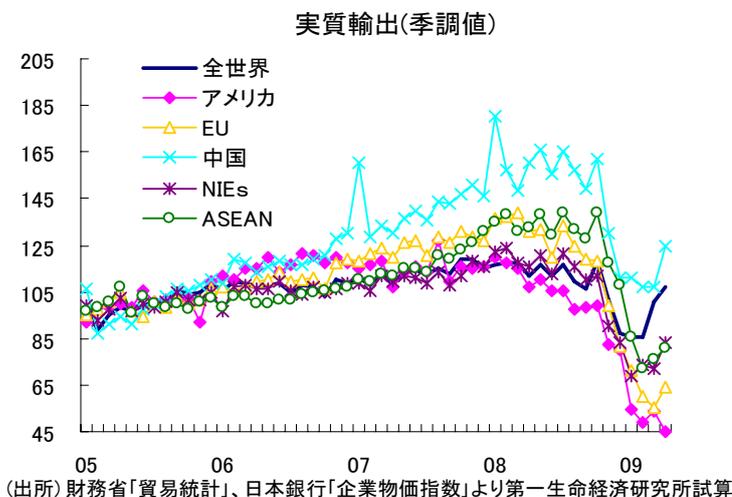
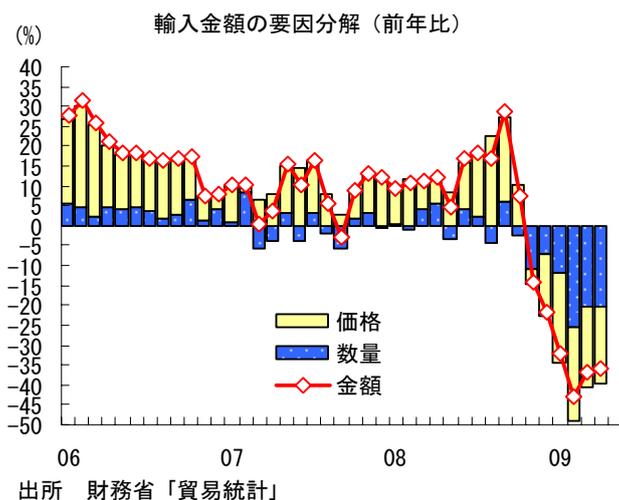
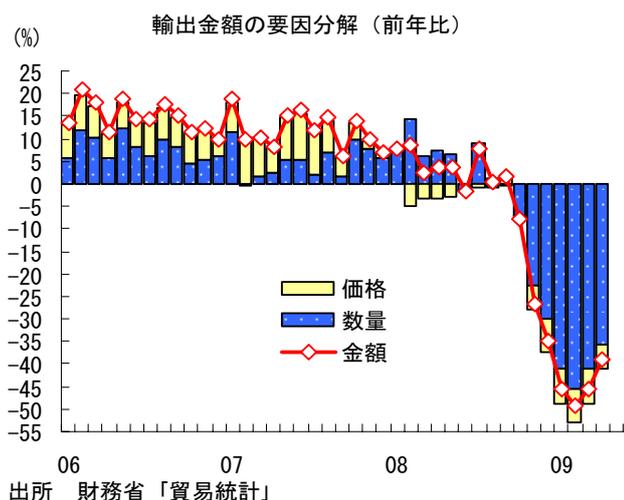
つある。また、半導体等電子部品もアジア向け（前年比▲26.4%←3月同▲40.6%）を中心に減少ペースは緩和しており、緩やかに改善している。

○輸入は原粗油、機械類などが減少

輸入は金額（前年比▲35.8%←3月同▲36.7%）、数量（前年比▲20.3%←3月同▲20.3%）とも、前月より減少ペースは鈍化したものの、大幅な減少が継続している。品目別では原粗油（前年比▲59.1%←3月同▲65.0%）などの鉱物性燃料が価格下落の影響で減少が続いているほか、国内需要や生産の落ち込みを背景に、半導体等電子部品を中心とした機械類も輸入の押し下げに寄与している。

○先行き輸出の持ち直しが見込まれるものの、本格回復は最終需要の動向次第

このように、輸出は昨年後半以降、急速な減少が続いてきたが、海外における在庫調整の進展、中国を中心とした景気対策の効果などもあり、足もとで改善している。地域別では、アジア向けが改善していることに加え、欧米向けについても悪化ペースに歯止めがかかりつつある。輸出に先行する傾向のある米国 ISM 製造業（新規受注）景気指数などの指標が、ここに来て改善していることから考えて、輸出は先行き持ち直しの動きが続くと考えられる。目先は比較的高い伸びになる可能性もあるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。